

ISO14001 認証取得が学生の意識と行動に与える影響

名城大学理工学部 正会員 伊藤政博
○名城大学理工学部 学生 畔柳勇希
名城大学大学院 学生 加藤隆吾

1. はじめに

1992 年ブラジル・リオデジャネイロで開催された“地球サミット”(国連環境開発会議)で、地球環境問題について議論され、「アジェンダ 21」(具体的環境行動)が採択された。この「アジェンダ 21」を的確にフォローする目的で 1996 年 9 月に発行されたのが ISO14001(環境マネジメントシステム)である。近年、ISO14001 を認証取得する組織が図-1 のように増加している。この図から、平成 17 年 10 月の時点で、19,205 の自治体や企業などが ISO14001 を認証取得している。また、46 大学が取得している。

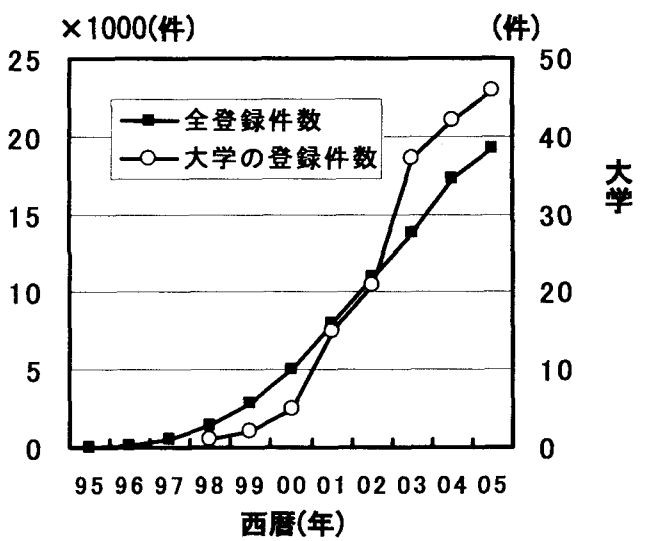


図-1 ISO14001 の登録件数(日本)

2. 研究目的

名城大学は平成 14 年 6 月 13 日に ISO14001 を認証取得し、3 年経過した平成 17 年 6 月に外部機関による更新審査を受け、認証が更新された。本研究は、この教育研究に関する ISO14001 認証が、学生の環境に対する意識や行動にどのような影響を与えているかを調べることを目的としている。

3. 研究方法

平成 17 年 7 月に名城大学理工学部、薬学部、農学部環境関連科目を受講している学生に対してアンケート調査を行った。その主な調査項目は以下の通りである。

- (1) 名城大学の ISO14001 について
- (2) 環境に配慮した日常の行動について
- (3) 地球環境問題について

本論文は、回収したアンケートの中で、理工学部環境創造学科 4 年生が答えた 132 固体と、平成 15 年 10 月に行われたアンケートで、当時理工学部環境創造学科 2 年生が答えた 100 固体について整理し、検討を加える。

4. 調査結果

(1)図-2 は名城大学が ISO14001 を認証取得したことを知っているか否かについて、平成 15 年と平成 17 年の回答を比較したものを図-2 に示す。この図より、ISO14001 認証取得を知っている学生は 90%。また、ISO14001 認証の更新を知っている学生は 25%である。ISO14001 認証更新については、周知度が低いということが分かる。

(2)大学内において、不使用の教室・研究室等の消灯、不使用のパソコン・電化機器等のスイッチ OFF、節水、廃棄物(ゴミ等)を教室の机の上に放置しない、廃棄物の分別ボックスの活用、および紙回収ボックスの活用について、環境に配慮した行動を行っているかどうか、平成 15 年と平成 17 年の回答の比較が図-3 に

示してある。この図より、全ての項目で平成 17 年の方が増加しており、環境に対する意識が向上していることが伺える。中でも、紙回収ボックスの利用に関してはその向上が著しい。

(3)大学に入学以来、環境に関わる意識はどの程度変化したかという質問の回答の比較が図-4 に示す。この図より、意識が変化したと考えられる「非常に」「ある程度」と回答した学生を併せると、平成 15 年では 37%であるが、平成 17 年は 63%になっている。

5. まとめ

1)環境創造学科 4 年生に関しては、大学に入学以来、環境に関わる意識が向上している。

2)環境創造学科 2～4 年生で同様に比較を行うと、大学内における環境に配慮した行動では、ほとんどの項目で減少しているという結果 ②が出ている。学年により意識の差が見られるということになる。

3)環境創造学科 4 年生が 1 年生の時に ISO14001 を認証取得した。取得 1 年目ということもあり、興味を持った学生も多かったと考えられる。

参考文献

1)日本規格協会：ISO14001 審査登録状況、

http://www.jsa.or.jp/iso/iso14000_05.asp

2)加藤隆吾、伊藤政博：教育機関の ISO14001

認証による教職員および学生の環境意識の変化、土木学会環境工学委員会、

第 42 回環境工学研究フォーラム講演集、pp.180-182、2005.

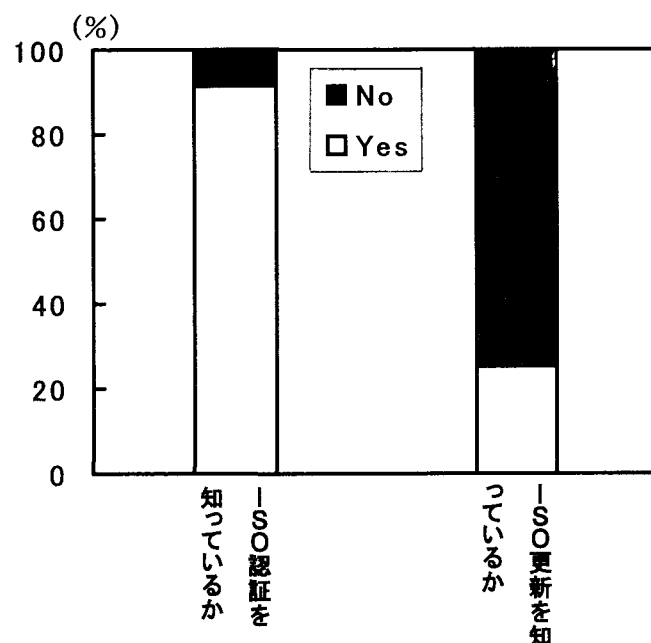


図-2 ISO 認証・更新の周知度

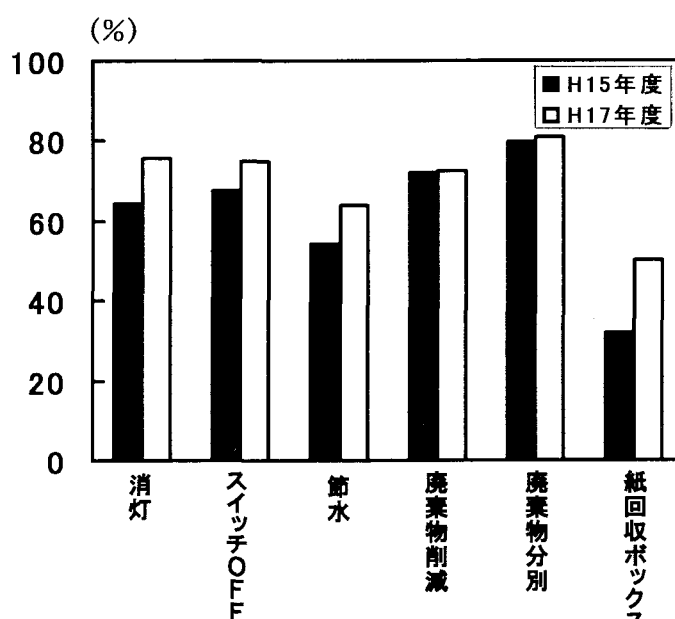


図-3 大学内における環境に配慮した行動

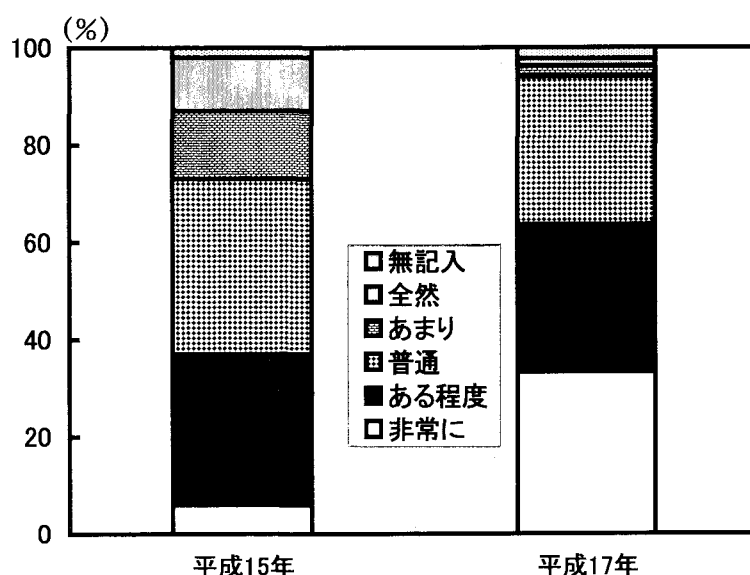


図-4 学生における環境に対する意識